学習会（子ども会）だより10月号 外編
MY SKY 臨時号
マイ スカイ
1995年10月16日月曜日発行（毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行）

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責：吉成正士

いよいよ全校全体学習が明日に迫ってきました。どうですか？「私の目をみて！」をとおして学習は深められているでしょうか。自分を見つめることができているでしょうか。

今回５校時を豊田先生，６校時を三木先生が進めていきますが，授業・資料によせる三木先生の思いを知っておいてもらいたいと思います。何度も繰り返し読んでみてください。

★　★　★　★　★

「私の目をみて！」によせて　６校時授業者　三木　健司

「部落って……まさか，あんたじゃないやろね」と愛子に言われたときから，たじろぎながらも，必死に愛子の差別意識をさとしていった勝子。「じゃ，私の目を見て」と決して愛子に怒りをぶつけることなく，さとす態度を貫き通した勝子。これは，愛子との闘いであったと同時に，勝子自身との闘いであったはずだ。もし勝子が，愛子に相槌を打っただけで何も言わずに終わっていたら，勝子は，卑屈な思いを引きずり続け，自分自身の誇りや自信を失わせていっただろう。

我慢して生活していくことは人間を腐らせていく。ひとつ我慢すると次から次へと我慢を重ねていかなくてはならなくなる。そのことが自分をがんばらせたくてもがんばりきれなくさせ，結局は自分をダメにしてしまう。勝子が愛子に対してとった態度は，これからの勝子を強くさせていくはずだ。この勝子の強さを共感していきたい。

部落問題だけに限らず，誰でも何らかの場面でいずれこのような経験をする。こんな状況は生活のいたる所にある。中学校を卒業すれば，ある生徒は高校へ進学し，ある生徒は職場へ出て，別れ別れになる。山嵐学級でがんばった勝子と同様，板野中学校で共に歩んだ仲間がいれば差別と向き合い歩き続けることができるだろうが，ひとりになったとき差別と闘い切れるだろうか。将来のためにも，一人ひとりが強くなっていかなくてはならない。私たちが身につけなければならないのは，人と連帯して強く生き抜く力である。これから巣立つ新しい環境の中でひとりになったとき，ひとりきりになるのではなく，そこで，共に正しく生きていける新たな仲間を作っていく力があれば，人としての誇りを掲げて生きていけるはずである。いま，共に歩いていける仲間がいなくて，将来ひとりにな

ったとき，どうして新しい仲間がつくっていけるだろうか。本当に人と連帯する力をつけなければならない。

いま，生徒も含め私たちは，集団の中で，いろんな遠慮や自然とできてしまった上下関係で，正しいと思ったことが主張できなかったり，正しいことを貫き通すことができない現実がある。学校生活の中で，友人を傷つける言動をする生徒，掃除や係の仕事をさぼる生徒，授業に参加することができない生徒，さまざまな背景の中で揺れる生徒がいる。その生徒たちに対して，私たちはどのように関わっているか。注意をしようと思うが，注意をすることで波風がおこり自分が孤立してしまうのを恐れ，注意ができない実態がある。また，学級での力関係を見てものを言う。全体学習や学級での部落問題学習で，発言したことが実際の生活には結びついていかない。特に弱い立場にある生徒は，人のそんな部分を非常に敏感に感じとる。だから，シラけてくる。この状態では，共に強く生きようとする「仲間」としての集団にはなり得ない。いまの学級集団が，本当の意味での「仲間」となり得ているか考えなおす必要がある。学級集団だけでなく，友達の集まり，部活動，学習会，いろんな集団においても同様である。

全体学習の中でも，「仲間」という言葉がよく出てくる。しかし，生徒一人ひとりの生活と「仲間」という言葉の持つ本来の意味が結び付いていない。勝子の強さをとおして本当の「仲間」というものはどうあるべきかをしっかり考え合いたい。そしてこの板野中学校にあるいろいろな集団が本当の「仲間」となってほしい。そのことが，正しいことが正しいと言え，おかしいことがおかしいと言える，そして，決して自分を飾らない一人ひとりに成長していくことになり，人間として強く誇らしい生き方につながっていく。そんな生き方が部落差別をはじめとするいろいろな差別を自らなくしていこうとする生き方につながると考える。そんな生き方を目指して，みなさんがんばりましょう。

★　★　★　★　★

実は私も，ここ最近の全体学習に一つの疑問を持っています。それは，資料から離れて，生活の中にある問題についての話し合いが少ないということです。

先日一人の生徒が，「先生，昨日のニュース見たん？」と話しかけてきました。私は見てなかったので，その内容を聞いてみると，部落差別が原因で道を誤り，事件を起こした人についてのものだったそうです。

他にも，いろんな方面から仕入れてきた情報について「これはどう思うか？」と問いかけてくる生徒がいます。各学級の中ではそんな話題についても話し合われているのかもし

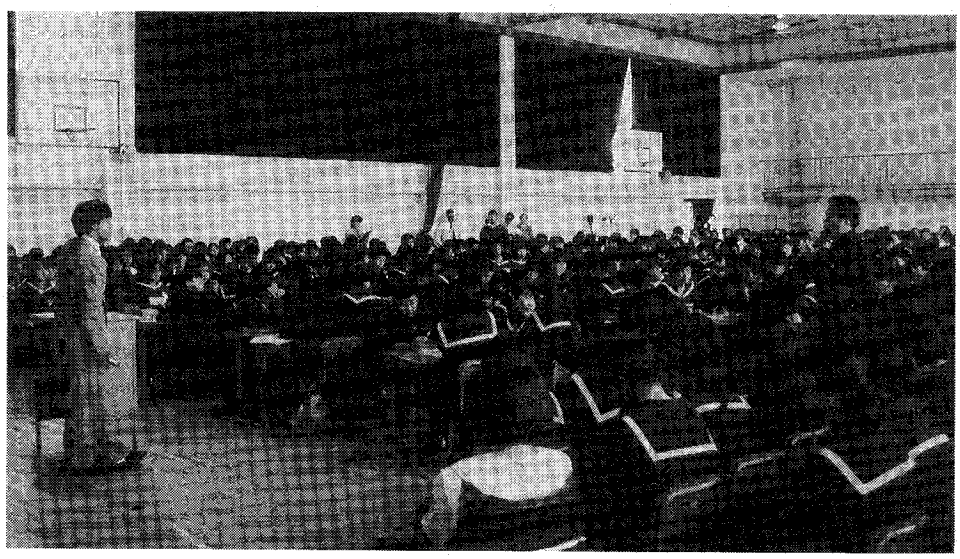
れませんが，全体学習の場でも，毎日の生活の中で気づいた差別的な事柄について本音で話し合ってみてはどうでしょうか？当然「ＭＹ　ＳＫＹ」の内容にふれた発言があってもいいと思うんです。

私は昨日，「蔵」という映画を観に行っていました。外国映画が好きで，日本映画はあの「学校」以来観ていないのですが，興味が湧いたので観てきました。

雪深い新潟の大きな酒造りの一人娘「烈」（一色紗英）を，幼くして襲った夜盲症。それが原因で家族の何もかもがバラバラになっていきます。今も日本社会に残る差別性は，大正から昭和という時代の中ではもっとたいへんなものでした。しかしそれらを一つ一つ克服していこうとする全盲の「烈」。こんな内容についても話し合いたいと思うんですね。

先日の学習交流会で，学習会参加者が「私たちは差別されている」と言っていましたが，学習会に参加していない人は差別を受けていないのでしょうか？「『部落や関係ない』って友達が言ってくれてうれしかった」と言っていましたが，本当にそれだけでいいのでしょうか？「学校生活に満足している」と言っていましたが，それは真実なんでしょうか？

今回の全体学習で，今一度原点に返って，私たち自身の足元を見つめる学習をしてみませんか。みなさん！本音でがんばりましょう！！



第２回板野中学校同和教育研究大会（10月17日：本校）